

気配りのアメニティをかたちに

前川 玲子 (旧姓 高嶋)

株式会社日建設計 設計部門設計室

このたびは修士課程専攻発足20周年おめでとうございます。

家政学部生活美学科住居コースから大学院の修士課程に進み、修了後今の設計事務所に入社してから16年目を迎えています。入社以来主にオフィス・商業系を主とした設計チームに所属し、百貨店やホテル、研修所などの設計に携わっていましたが、3年ほど前から医療福祉チームに移り、現在は新設の民間の大学附属病院と、町立の保健福祉複合施設の建設に携わっております。どちらも現在建設中であり、この度初めて設計に携わった病院については、この特別号を手にする頃には建物引渡しも終わりやれやれ…という間もなく、年末の開院に向けての準備段階の中、クレームや手直し工事対応に追われている毎日かと思えます。病院の設計は専門性が高く特有な知識が必要で、人・物の導線も複雑である上に機能優先であり、設計・現場段階においてこれほど沢山のスタッフと打合せをして設計をしたことは今までありませんでした。打合せの中、患者さんのアメニティを大切にという反面、その複雑な機能や部門毎の使い勝手、清潔管理や感染対策等を突きつめていくと、患者さんの立場やアメニティが二の次になっていると感じることが多々ありましたが、患者さんが病院を選ぶ大きな理由や満足度といったものは何よりスタッフの心のこもったサービスによるところが大きく、スタッフによるやさしい気配りのアメニティに勝るものはないといわれます。光や色の感じ方も様々な状態の患者さんの立場にたった環境づくりはもちろん、患者さんを支えるスタッフにとって使いやすく気持ち良く働ける環境がスタッフの士気を高め、表情を柔らげ、結果的に患者サービスの向上につながることになるので、病院に限らずどんな用途の建物の設計においても、いかにそこにいる人それぞれの立場や状況に立って考えられるか、という事の大切さを改めて考えさせられています。

(1990年度生活造形学専攻修士課程修了)

